

「資料はいらない」って本当！ 13日の文教経済常任委員会でのできごと

13日の文教経済常任委員会でのできごとです。

教育費の税外負担認める

わが党の橋爪法一議員が、教育費の税外負担について質問しました。3月議会で約束していた調査結果を聞いたものです。教育総務課長は、PTAや学校後援会の決算書を取り寄せて調査した結果、「全額不公正というわけではないが、費目ごとに集計すると490万円ほど」と答弁しました。橋爪議員は、「この調査結果を資料として提出して欲しい」と要請しました。教育長は、「提出しよう」と応じたのです。

教育長は「出す」というのに

「要らない」という保守議員

ところがこれに、保守系の議員がいちやもんをつけてきました。「時期尚早だ」「不正確なデータが一人歩きする」などという屁理屈です。委員会では本来の議案審議はそっちのけで、資料提出を求めるか求めないかでもめ、最後は起立採決で「提出を求めない」としてしま

ました。教育長が「提出する」といつているのにはです。

教育費の税外負担とは

「税外負担」というのは、本来行政が支出しなければならぬ費用をPTAや学校後援会が肩代わりして支出している費用のことです。「教育予算が少ないので、どこでもやられている」といわれたいながら、実態がなかなか明るみ出ない問題です。それを上越市は、一部ではありますが存在を認め、是正をしようとしているのです。口頭で答弁したものを文書にするだけのことですが、それを「要らない」というわけです。

説得力ない「理由」

「資料は要らない」とする理由は、まったく説得力がありません。「時期尚早」といつても、6ヶ月も前に約束していたことで遅いくらいです。「不正確なデータが一人歩きする」だって、議会で答弁したことです。議事録にも載り誰でも閲覧



できます。こんなことはないと思います。が、もしも「共産党の橋爪の要求で資料が出されるのは悔しい」ということであれば、それは何と哀れな考えでしょう。「自分でも勉強してがんばろう」というのが、本来の議員の姿勢です。

出せなくて困るのはだれ

この資料が提出されて困る人は誰もいないでしょう。それどころか「上越市はすごいことをやるう」といっているとおおいに注目され、「それを進めた市長はすごい」ということになるはず。今回出せなくなったことで一番困るのは、教育委員会です。次は「中間報告」というわけにはいきません。徹底的に調査し精査した結果を余さず報告する義務が生じてしまいました。報告しなければ、「教育委員会は実態を隠そうとしている」ということになります。さあどうする、教育委員会。

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

市政レポート

2006年9月17日 117
発行 杉本敏宏事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832